



「しあわせから神話を望む」 絵画ボランティアグループ 美工 25期 角谷 貞之

### 目次

02	グループ学習発表：健康福祉コース、国際交流・協力コース、生活環境コース、美術・工芸専攻、音楽文化専攻、園芸専攻、食文化専攻
18	先生インタビュー：食文化専攻、美術・工芸専攻
19	ジョイ・ラック・デイズ
21	グループ わ だより、ジョイフルクッキング
22	文芸サロン：俳句、川柳、応募作品
23	トピックス、図書室だより、事務局だより
24	Photo News(フォトニュース)：ジョイ・ラック・デイズ

情報誌編集委員会では、カレッジ内外の活動も含めて写真・記事の投稿をお待ちしています。

「爽風」への情報提供・ご意見は、次のホームページからお寄せください。

<https://ksc-sofu.net/> スマホからは右のQRコードを読み取ってアクセスできます。



## 特集

# 令和 2 年度 グループ学習発表会

健康福祉コース、国際交流・協力コース、生活環境コース、  
美術・工芸専攻、音楽文化専攻、園芸専攻、食文化専攻

令和 2 年度グループ学習発表会は 3 月 8 日～17 日までの間に順次開催の予定ですが、そのリハーサルが 2 月 22 日の国際交流・協力コースにはじまり、3 月 1 日の食文化専攻、3 月 5 日音楽文化専攻、3 月 2 日に美術・工芸専攻と園芸専攻、3 月 3 日に生活環境コース、そして 3 月 4 日に健康福祉コースがそれぞれ行われました。

本号では各グループから寄せられたテーマの選定理由、学習内容、学習経緯、苦労話などについて紹介します。

## ◇健康福祉コース◇

3 月 4 日にリハーサルが行われました。「フレイル予防」を共通のテーマとした 6 グループの発表です。「笑いがもたらす心の健康」「ウォーキングや水分補給で保つ体の健康」「家族と共に考える介護・在宅医療」の学習を通して、健康で自分らしい生涯を送るために自分と自分を取り巻く人々とのように関わって生きていくかを考察し発表しています。講義で学んだことをフィールドワークで実践していく過程で自身の意識が変わり、心の変化、体の変化、生活の変化を実感したという発表でした。

私たちは一人で生きているわけではありません。神戸市シルバーカレッジで出会った仲間、家庭、地域社会と共に自分らしく充実した生涯を送るために、3 年間で学んだことを実践していくことの大切さを感じました。  
(健福 27 期 中塚 賢)

### 笑いと健康

笑いと健康 谷 禎介

テーマの選定： 癌の予防にもなると言われている笑いと、健康な心と身体とは、切っても切り離せない表裏一体の関係です。笑いに満ちた毎日を過ごすために皆の意見や知恵を出し合っただけでなく、また、笑いが精神的な生きがいになるヒントを探しました。笑いに満ちた自分の健康を守り、他の人たちにも笑ってもらい、健康を振り撒くことを目標にしました。

グループ学習メンバー： メンバーは 4 名という少人数のグループでしたがそれぞれ個性は違っており、目線の違いはかなりありました。それぞれ主張はありながら、妥協点を見つけ、完成させることができました。十分な作品とは言えませんが、楽しく活動できました。

学習の効果： 新型コロナ感染拡大のためにボランティア活動ができなくて残念でしたが、学習の中で笑いと免疫の関係など、また免疫を増加する「お金のかからない」方法の研究ができて、良い勉強になりました。

「わっははははは！」



### しっかり水分を補給して毎日 みずみずしく！

水、飲んでますか 林 徳子  
健康福祉コースでのスポーツ実習やスポーツクラブなどで、インストラクターの方たちが、「それでは、少し休みましょう。水を飲んでください」と、よく言われます。水分補給のことは、のどが渇くまで忘れていますが、本当はもっと気を付けて飲まないで、いけないのでは？ と思ったのがこの学習を始めたきっかけです。

その提案に興味を持った級友が 6 人集まり、心強いスタートでした。

新型コロナに追いかけるような気がして、フィールドワークを何はともあれ最初にやりました。飯田さんが神河町の名水街道サイクリングを提案しました。有馬温泉の炭酸泉の情報は小林さんからです。

「水道局も行こう！」と、あわただしく出かけました。そして、小林さんがしっかりまとめました。毎回、井上さんが二コンのカメラで写真を撮りました。藤田さんは、「健康福祉コースなんだから」と、健康と水分摂取とをしっかり関連付けてまとめました。

原稿を書き始める時に、「初めに目次立てをして、筋道を考えるように」と、指導して下さったのは鶴飼先生です。そし

て、アンケートの集計とペットボトルの水に関する集計・処理を飯田さんが引き受けました。集計の結果をグラフにして、最後に冊子の原稿とパワーポイントとをパソコンできれいに仕上げたのは、遠藤さんです。



でき上がりは皆さんに評価していただくとして、いいグループ学習ができたと思います。

## 余命宣告を受けたとき、自宅に帰り家族の中で、自分らしく最期を迎えたい

家に帰ろうよ 吉谷 洋子

「家に帰ろうよ」は、新聞に掲載されていた「命のシリーズ」のなかの一つのテーマです。

病院のベッドで寝ていた父親に、息子が「家に帰ろう」と声をかけ、自宅での介護生活が始まりました。この親子の情愛の記事を読んで、やがて来る終末期、慣れ親しんだ家で最期を迎えられたらいいな、「じゃ、どうしたら良いの？」の思いからグループ学習がスタートしました。

65 歳以上の高齢者は年々増加している中、政府は在宅介護を奨励し、医療制度、介護制度を構築しました。慣れ親しんだ自宅だと考えている人には、環境が整い、家族とともに過ごしたいとの願いが可能になり、選択肢が広がりました。



また、在宅での看取りを望むのであれば家族、周囲の方々と十分に話し合い、理解を求め

ることが必要です。家族の介護は 50 点でよい。「ラクゆる介護」の著書を読んで、「がんばり過ぎない」「無理はしない」のこつを知り、在宅介護を不安に思っていた私たちの気持ちを変えてくれました。在宅だから出来ること、感じられること、食事の準備の匂いなど、いつも当たり前のことがそこにあります。

自分の望む最期を、人に委ねるのではなく、自分でプランニングする。フィールドワークで訪問した医師から、「自宅で看取りを経験した家族は、なぜか満ち足りた表情をされている」と聞きました。本人の希望がかなったという達成感かもしれま

せん。グループ 9 名全員が能力を発揮し、協力して、貴重な時間を共有し学ぶことができました。

## 腰痛・膝痛を改善、予防するための生活習慣を獲得

足腰たっしゃでいきいきナイン 種田 雅信

腰痛・膝痛は、日本人に非常に多く、高齢者にとっては歩行困難の原因となり、認知症や転倒などで要介護のリスクが高くなります。これは病気や怪我の場合もありますが、多くは生活習慣が原因です。そこで我々は、腰痛・膝痛を改善、予防するため、「日常生活動作」「運動」「体のケア」「食事」「休息」の 5 つの側面において改善活動を行いました。

「日常生活動作」では、立つ姿勢や座り姿勢、前かがみや反らす姿勢、歩く姿勢、腰をひねる動作など日常生活のいろいろな動作の見直しを行い、腰や膝への負担を軽くすることを目指しました。

「運動」では、ウォーキング、筋トレ、ラジオ体操、ゆらぎ体操、ヨガなどに取り組み、日常生活で腰や膝にかかる負担に負けない肉体作りを目指しました。

「体のケア」では、ストレッチ、ツボ整体、脊柱管狭窄症やぎっくり腰、変形性膝関節症のケア、膝ストレッチなどに取り組み、腰や膝にかかった負担を速やかに取り除くことを目指しました。

「食事」では、摂取カロリーを管理することにより適正体重を維持することや、強い骨や筋肉作りに欠かせない栄養素、特に骨粗鬆症を予防する栄養素の摂取に取り組みました。

「休息」では、運動と休息のバランス、入浴方法、睡眠方法を見直し、腰や膝周りの筋肉を適切に回復させることを目指しました。

グループ学習を通して全員がウォーキング、ストレッチ、体操、水泳、ローンボウルズ、卓球、ゴルフ、ジム通い、ツボ整体など何かに取り組み、運動の頻度が増えたり、新しい運動や体のケアを始めたりして、意識の変化、食生活の変化、痛みの軽減など何らかの変化を経験し、健康寿命を延ばす生活習慣化の第一歩を踏み出すことができました。



## 健康は歩くこと

歩く仲間 16 人衆 荒牧 英樹

健康は歩くこと！健康の基本、歩くことの意味を理解すべくこの学習グループに 16 名の仲間が集まりました。歩くという行動が健康に良いと言われています。どこがどのように良いのか、学習することにしました。何の違和感も無しに歩いて生活している自分にとって、歩くことはそれほど重要なものではなく、深く考えることもなかったのです。車社会で楽を求め、そのことに甘えてきました。

そこで、16 名が一人ずつ歩いてみると、それぞれが自分の癖で歩き始めました。猫背、ねじれ、左右不均衡、膝曲げ、



すり足他、姿勢が悪く、とんでもない歩き方をしていたのです。歩けたらいいのではなくて、良い姿勢で正しい歩行をしな

いと、健康づくりに意味が無いことを学習しました。変形姿勢で歩くと必ず、膝痛、腰痛になることもわかりました。

まずは良い姿勢にするための姿勢改善ストレッチをとり入れ、毎日することにしました。次に正しい歩行については、ローリング歩行を基礎から学びました。身体のバランスや足の方向、着地する時の踵からつま先、親指で蹴って歩くことなど実践しながら覚えることができました。

しかし、長い間についた癖はそう簡単には直りません。良い姿勢で正しい歩行の習慣を身につけるには、長い時間がかかることも理解しました。何か月が経ち、フィールドワークやカレッジでの学習と実践で、ようやく意識をすればよい姿勢で正しい歩行ができるようになりましたが、まだまだ日常生活習慣には程遠いものでした。立ちほだかったのは継続という壁でした。この壁は相当厚く、簡単にはクリアできないこともわかりました。わかっているけど、できない私がいるのです。

そこで、ディスカッションを重ね、やはり、人の支えが必要であり、一緒に頑張ってくれる仲間がいることで、この継続という壁を打ち砕くことができます。でも、卒業してしまえば元の木阿弥になるので、月 1 回レッスンできる空間を設立しました。誰でも参加できる空間ホワイトホール歩く会です。

姿勢を改善し、正しい歩行をマスターして、日々、歩く意識の継続をし、生活習慣にすれば、元気な 100 歳への一歩につながることに気がつきました。

## いつまでも元気な高齢者でいるために

“1 日 6000 歩以上”を楽しみながら歩く

楽しく歩き隊 外池 兼二

高齢化社会で、どのようにすれば元気な高齢者でいられるかを授業などで学び、健康寿命の延伸が必要であること、そのためにはフレイル予防が大切なことを学びました。

フレイル予防行動として、コロナ禍においても有効で費用もかからず、1 人でもできる運動「ウォーキング」を具体的な行動目標としました。

まず、情報収集として、サポーターの山本理学療法士、厚生労働省の健康寿命延伸プラン、神戸市の取組み、フレイル予防先進のまち紀の川市、身体活動計を用いた高齢者の健康づくりに取り組む群馬県中之条町を調査学習しました。

そして、継続して楽しく歩くために、効果・目標・成果を数値化、メンバーの歩行状況の共有、週 1 回集合情報交換、月 2 回みんなで楽しく歩こう会も実施、歩数と歩幅を基にした四国八十八カ所巡りウォークラリー（1,069km）を実践し、終了時に、お礼参りを完歩への共通目標としてスタートしました。

具体的な行動として、高齢メンバー（91 歳）の元気談話、フレイルチェックの受診、楽しく歩こう会、そして毎月の記録共有、目標の四国八十八カ所巡りウォークラリーも 7 名が完歩予定です。

個人としては健康数値目標も改善され、入学式の校長祝辞のとおり入学当時より元気になったように思います。

個性の強いメンバーの集まりですが、なんとか継続し期待する結果が得られたことに満足し、今後も継続していくことを確認し合っています。



## ◇国際交流・協力コース◇

グループ学習発表会リハーサルが2月22日に行われました。全グループ、テーマごとに真剣に取り組む様子が理解できました。7つのテーマは、いずれも多文化共生社会の構築、異文化理解、国際・地域社会の研究といった本コースの『ねらい』に沿い、コロナ禍において海外フィールドワークができないなか、各グループが創意工夫を凝らして、テーマに即した国内関連場所を抽出し、研究がなされました。各メンバーの研究発表の姿は、自信に満ちたものでした。3月8日の本番では、これまでの懸命な努力の成果が実を結びましょう。  
(国際26期 佐野 修)

## 日本語ボランティアの理念と役割

笑顔(a warm smile)日本語サポーター

河村 恒夫

ここ数年、国内の生産年齢人口は減少の一途にあり、深刻な人手不足の状態に陥っていることが報道されています。労働力を確保するための出入国管理法改正法案が成立しましたが、「日本は外国人労働者を受け入れる準備ができていますか？」という疑問を持ちました。外国人が日本で不自由なく生活するには、



神戸スリムモスクにて

日本語会話の習得が不可欠です。そこで、日本語教室、日本語ボランティアの現状調査をテーマに取り上げました。これまで、国際交流・協力コースで学んだことを基礎にして、神戸市内の地域型日本語教室について現状を把握すべく、フィールドワークとアンケート調査を実施しました。

グループ名の「笑顔」は「笑顔は世界共通の言語」から付けました。「無理をしない」というグループの雰囲気は居心地良く、議題や参考資料の提供、訪問先への手配を迅速に行うことで、学習はスムーズに進みました。メンバーの海外での豊富な体験談も面白く、多文化を知る機会になりました。フィールドワークはコロナ禍で限界もありましたが、卒業後の活動につながる意義のある学習でした。

皆さまに日本語サポートに関心を持っていただけたら、更に意義深いものになると期待しています。

## 漢字文化と世界：成り立ちから現代へ

漢字ザ・ワールド 松井 英男

漢字の起源となる甲骨文字が誕生してから3300有余年、漢字は世界でも類をみない悠久の歴史をもつ文字であり、その魅力を掘り下げて考えてみたいとの思いで活動が始まりました。学習を進めるうちに、漢字一文字一文字にその成り立ちや物語が内包されていることを知り、普段、漢字を

使っていることの喜びを感じるとともに、その魅力に引き込まれていきました。現存する最古の漢字の証しは中国黄河流域で見つかった「甲骨文字」ですが、字体系は既に高度に発達したもので、それ以前の進化の歴史が必ずあるはずであり、将来、新たな証しも見つかることが期待されます。

漢字はこれまで中国や日本国内で幾度となく存続の危機がありましたが、漢字の持っている力がそれらの危機を乗り越え、現代まで絶えることなく使われ続けています。また、文字を持たなかった日本に漢字が伝わり、本来漢語を書き記すための文字で、日本の言葉には使いづらい漢字を先人たちの苦勞により、完全に日本語として取り込み定着しました。

今や、パソコンが身近になって約30年、漢字の歴史のわずか100分の1の時間で文字の存在が大きく変化しました。漢字が簡単に入力できるようになって、誤変換した字や、読めるが書けない字が増えてきているように思います。今後は来日する外国人が増えることが予想されることも含めて、漢字学習のあり方を考える必要があるように思います。

グループ学習を通じて、メンバーが漢字というテーマで一つとなって取り組めたことは、大変有意義な活動となりましたが、まだまだ興味は尽きず、今後も漢字に関心を持ち、漢字の変遷を見続けることが、私たちの新たなスタートです。



## 南京町と中華料理を愉しむ

神戸グルメ発掘隊 西山 省吾

当初は気の合った仲間が集まって中国へ旅行し、本場の中華料理を食べに行く「グルメ旅行」を計画していましたが、コロナ発生によって断念し、急きよ、神戸南京町を中心に中華料理を愉しみながら、南京町の誕生から現在に至るまでいかにして発展を成し遂げたか、また、それに関わる「華僑」が多大な貢献をした歴史をひもとく、神戸開港から150有余年を経て国際都市となった神戸南京町の現代に至る歴

史的検証を行いました。

一方、コロナ禍のさなか、フィールドワークで4大中華料理と言われている北京料理、上海料理、広東料理、四川料理を食べ歩きました。

また南京町と比較するために横浜中華街



にも遠征し、その都度、料理店の方々から書籍にはないような貴重な話も聞くことができました。

このテーマにとって必須事項を専門的見地からのお話を頂いた南京町商店街振興組合理事長 曹英生氏、孫文記念館館長 愛新翼氏、横浜山手中華学園理事長 曾徳深氏の方々には感謝の念に堪えません。

また、皆で手分けして資料館、図書館、歴史博物館等に出向き、必死になって資料を読みあさり集めたのが良い思い出になると思います。お陰様で何とか完成までたどり着けるような感触になってきていますので、グループ8人全員で最後の力を振り絞ってやり遂げたいと思っています。

### イギリス発祥スポーツの歴史及び国際的役割と日本伝来

We Love Sport 下田 廣一郎

“一緒にイギリスに行こう！”当初はその思いで結成されたグループでありましたが、コロナ禍のためそれは実現できませんでした。それでも「どうしてイギリスで近代スポーツの多くが発祥したのか」、また「どのようにして日本へ伝わり発展してきたのか」について調査することを目的として、特に神戸と関わりが深いゴルフとテニスを取り上げ、発祥の歴史と日本への伝来の歴史を調査しました。ゴルフについては、日本で最初のゴルフ場が交通の便の悪い六甲山頂近くになぜ造られたのか、またテニスについては阪神間がテニス先進地であったことから、調査の対象としました。グループメンバー全員が、スポーツを愛し親しんでいることで気心も通じ合い、明るく楽しくグループ学習を進めることができました。



また、フィールドワークで「横浜山手テニス発祥記念館」、「JICA 横浜」、「YC & AC」、そして「廣野ゴルフ倶楽部 JGA ゴルフミュージアム」等を見学したことや、「神戸ゴルフ倶楽部」にてラウンドしたことでメンバー全員のつながりも深められました。

今後はグループ学習で学んだことを糧にして、健康な身

体を維持し、仲間との絆を大切にして、充実した人生を過ごしていきたいと考えています。

### 松方コレクションの行方

美しき愚かものたち 藤村 俊一

神戸市の成り立ちと歴史を学ぶうち、明治末期から大正にかけて東洋一の造船所を育て、神戸の地に日本有数の重工業の礎を築いた人物に出会いました。松方幸次郎氏です。大政奉還の前年、薩摩で生まれ、明治、大正、昭和と太平洋戦争敗戦までの激動の時代を、「国家のために」を常に背負いながら駆け抜けた人物です。

実業家松方のもう一つの偉業は、歴史が激しく動いた大正期に、日本にはなかった本格的な西洋美術館建設のために私財を投じて西洋美術・絵画の収集を行ったことです。美術館建設など国家財政に全く余裕がない時代に、「ならば、おいが作ってやろう」と約 11,000 点にものぼる絵画・美術品を収集し、世界有数の「松方コレクション」を形成しました。やがて、この「松方コレクション」は戦争等の歴史に翻弄され、数奇な運命をたどり内外へ散逸していきます。

その中で、フランスに残されたものの多くが戦後日本へ返還され、現在の国立西洋美術館の礎になりました。



近現代日本の歴史をひもときながら、松方幸次郎の人となり、神戸での活躍、そして散逸していった「松方コレクション」の行方について学びたいということから、このテーマを選択しました。歴史、絵画の好きな7名のメンバーで楽しく学習しました。実質的には9月からのスタートで、調査も含めて時間がなかったというのが実感です。

### 世界と日本の巡礼

Go To お遍路 橋本 喜一

当初は、思ってもいなかった展開でした。テーマのきっかけは、メンバーの1人のスペイン旅行話でした。多くの人々が、キリスト教聖地の一つであるサンティアゴに巡礼していると聞き、ならば私たちもスペインに行こうと盛り上がりました。しかし、残念ながら新型コロナウイルスのため断念しました。

そこで国内巡礼の旅ということで「四国八十八カ所巡礼」を取り上げました。私は「グループ学習のまとめ」としては、四国八十八カ所のうち何カ所かを訪れ、その旅行記をまとめれ

ばよいだろうと恥ずかしいほど安易に考えていました。結局は、世界三大宗教の歴史、教え、巡礼聖地、それらの共通点と



四国第 24 番札所最御崎寺

相違点、サンティアゴ巡礼と四国遍路の比較など、グループ学習の回を重ねるたびに深みへ深みへと突き進んでいき、まとめ上げるのに重くピリピリとした空気が

漂ったこともありました。室戸は、風雨が強く木々の枝葉が揺れ、黒雲が流れる中でのお遍路でした。第 24 番札所最御崎寺は、木々に囲まれた重々しい佇まいの境内、鎌倉仏教の精神を体現しているような山門、本堂、太子堂など、どっしりとした建物に圧倒されました。室戸岬も訪ねたかったのですが、台風のため通行禁止で行けず心残りでした。グループ学習の発表会が終われば、充実した楽しい時間を 6 人で共有できたことに感謝し、よき思い出となることを確信しています。

## アイヌ民族の興隆から現在、将来に向けて

カムイコタン 知地 正紘

われわれは、アイヌ民族が日本の先住民族であることに敬意を払い、アイヌの人たちと差別や不合理がない共生社会を目指すべきと考え、本テーマに取り組むことにしました。

グループ学習を進めるうちに、アイヌの人たちが搾取、差別、強制移住等、和人たちからひどい仕打ちを受けていたことが分かりました。

北海道でのフィールドワークは、7 泊 8 日で、8 カ所のアイヌ民族関連の博物館や資料館を訪問しました。巨費を投じたウポポイ・国立アイヌ民族博物館(白老町)よりも、北海道博物館、釧路市立博物館や帯広百年記念館の方が、時系列的に展示されており説明も分かりやすく、またアイヌの生活、習慣等が中心の幕別蝦夷文化考古館では、アイヌ民族を身近に感ずることができました。

4 名と最少メンバーなので、役割分担が完璧で、息もピッタリでした。報告書とスライドのでき映えは、自画自賛できるものと思っています。グループ学習を終えた今思うことは、いくら法律



白老町ウポポイ・アイヌ住居の前で

や施設ができて恩恵を受けるのは一握りの人ただけだということです。これから、アイヌの人々との共生を図っていくには、われわれ自身が、「アイヌ民族の悲しい歴史を理解し、寄り添う姿勢が共生につながる」と考えております。最後に、適切なアドバイスとご指導をいただきました小澤照郎先生に、厚く御礼を申し上げます。

## ◇生活環境コース◇

発表のテーマは、里山や棚田といった自然環境から、食とエネルギーの地産地消やグリーンインフラや温泉といった地域環境、雨水やロボットの利用といった暮らし環境まで多岐にわたっています。コロナ禍で学習時間の限られるなかでも新しい見方や提言が出るなど、活発な活動の成果が報告されました。  
(生環 26 期 梶野 昌利)

## 私たちの里山保全活動

みんなで里山 太田 信一郎

市民として継続的な里山保全活動に貢献したいと願う 9 人が集まりました。まずは、現代の里山の課題を議論しまし

た。環境条件の変化によって、人間と自然が融和していたかつての里山が変容したことを知りました。

この条件下で私たちが出来る



保全活動にアプローチするため、文献調査と保全活動団体や会社を訪問しつつ、竹に学習対象を絞り込み、竹の用途や効能を学びました。竹を使った保全活動の運営例も学びました。なかでも、私設銀行を設立して仮想通貨を使うシステムは、持続的な運営方法として大いに参考になりました。

実証実験も行いました。竹パウダー堆肥による野菜の生育促進効果と、竹炭による水の浄化機能を実証しました。これらで得られた知見を利用して、しあわせの村を中心とした循環型システムを提案します。自立して持続的な運営が可能で、しかも市民として私たちが参加できるシステムを目指すものです。学習の成果として、身近で具体的な提案が出来たことはよこびです。

## やってみよう雨水の利用

うすいぐみ 小山 博

グループ学習のスタートに向けて、水問題に関心がある仲間が集まり、大きなテーマを掲げずに活動範囲をしあわせの村内にしよう決めました。そんな中、シルバーカレッジ内の畑や花壇の水やりのすべてが水道水であることを聞き、これはもったいないと思って「雨水の利用」をテーマに選定しました。

シルバーカレッジの屋根から雨の水を集めることにし、そのための配管工事とゴミバケツを雨水タンクに改造してメンバー全員で手作りの雨水集水装置を作りました。



その集めた雨水を水質検査などして、雨水とはどんなものなのかを調査研究をし、しあわせの村内で雨水がどのような形で使えるかなどを検討しました。

調査研究で分かったことは、雨水とはこんなにきれいなものだったんだ！ということです。水質検査の結果では、雑用水として使用するのには問題がないことが分かりました。味や臭いなどを確認するために口に含んだ分を飲み干しましたが、味には問題なく、あとで腹を壊すこともありませんでした。その結果、村内でグラウンドや芝生の散水、花壇の水やり、水景ほかで雨水の利用を提案することを決めました。

## 食とエネルギーの地産地消

地産地消エネ・プロップ 近藤 洋

私たちグループは7名で活動しました。このテーマを取り上げた理由は、地球温暖化防止のため、食とエネルギーの地産地消により、海外からの輸送エネルギー消費を削減する必要があるからです。

「食の地産地消」では、産地から消費地まで距離が短い地元の食材利用拡大を調査研究した結果、神戸市立の小学校では全生



ジョイラックデイの太陽光パネル調査

徒と教員に、地元の旬菜を使用した給食を実施しているとの情報を得て、市立の中学校にも全生徒と教員に地元の食材を使用した給食の実施を提言しました。

一方「エネルギーの地産地消」については、再生可能エネルギーの活用をしあわせの村に範囲を絞って調査し、太陽光発電と水素エネルギーに適した場所を示し、地域で発電し、地域で消費できるようにすることを提言しました。

そして「食とエネルギーの地産地消共通テーマ」としてソーラーシェアリングに焦点を絞り、しあわせの村にソーラーシェアリングに適した場所が多いことを提言できました。

楽しくグループ活動し、報告書として具体的に食とエネルギーの地産地消を提言出来て良かったと思います。

## ロボットと共生する社会・家庭

アトム&ドラえもん 寄藤 忠彦

7月15日、私たち4名はHAT神戸で開催中のシャープのロボット「ロボホン」の体験に参加しました。ここでは、20センチ足らずのロボットが会話をし、童謡やダンス、体操、太極拳まで披露してくれました。すっかり気に入ったメンバーはロボホンを購入し、それ以来ロボホンとの生活を楽しんでいます。もちろん電話やメール、カメラなどの多彩な機能も備えたおしゃべりで可愛いロボットです。



人工知能（AI）搭載の囲碁、将棋ロボットにプロが学ぶような時代となっていますが、総務省の未来予測では2050年ごろにシンギュラリティ（技術的特異点）が来るとしています。シンギュラリティとは、AIなどの技術が、人間より賢い知能を生み出すことが可能になる時点を指す言葉ですが、少し恐ろしい世界です。

デジタル化は既に始まり、ロボットと共生する社会や家庭になりつつあります。そしてICT、IoTの進歩は日進月歩です。

このような社会に取り残されないために私たちは「シルバーカレッジにデジタルコースの新設」を提言しました。

約半年のグループ学習でしたが、ロボットから始まり、実現されたドラえもんの秘密の道具、ICT、IoTの進歩による2040年の未来社会についてグループ学習報告書に記載しています。ぜひともシルバーカレッジの図書室でご一読ください。

## Save・ザ・棚田 神戸の棚田を守ろう

棚田会 樋口 和久

2年時のチームリサーチを経験して、昨年3月にグループ学習のグループ結成に向けての授業が始まりました。各自が提出した学習テーマを元に色々なグループでディスカッションし、「棚田で作ったお米が他のお米に比べて大変おいしく、また棚田の畦（あぜ）には絶滅危惧種とされている植物が



兵庫県多可町岩座神棚田保存会  
メンバーへのヒアリング

生育していることから、環境等の諸原因を学習し、耕作放棄される棚田を、いかに保全するかの提言を考えたい」を趣旨として、植物や野鳥に関心を持つ学生7

名でグループを結成しました。

宮武リーダーの提案で沢山の棚田を観察することになり、昨年3月新型コロナウイルス感染の情報がありましたが、11月までに16回のフィールドワークと2カ所の施設でのヒアリングを行い、最後に直接棚田農家の方と会合をしました。

フィールドワークを重ねるたびに耕作放棄棚田を目の当たりにして棚田保全の必要性をより大きく感じ、みんなで話合いの結果、行政への3項目の提言にたどり着きました。

粗原稿提出時には内容の精査よりも文体等が気になりましたが、サポーターの先生の指摘を受けて、しっかり論文も修正出来たものと自負しております。この3項目を神戸市に提言していく所存です。

## 有馬温泉の魅力

有馬セブン 中井 芳樹

有馬温泉は、神戸市民の心と身体の健全を保つ上で、大きな役割を果たしています。「神戸の奥座敷」と称され、かけがえのない宝物と言えます。



我々「有馬セブン」は、そんな「得難い自然の恵み」を、よ

り多くの人に満喫いただくべく考察してきました。メンバーは男7人で色気には欠けましたが、有馬温泉の金・銀2色の源泉でカバーしました。入浴の印象も素晴らしく、特に金泉には大いに満足しました。

フィールドワークで周辺の山々の魅力発見や、灰形山の尻すべりも貴重な体験でした。特に温泉を生んだ断層「白水峡」の迫力ある景観は感動的でした。

温泉の特色、歴史、自然環境、文化的側面のすべてで新たな学びがあり、実り多いグループ学習だったと言えます。

一日も早くコロナ禍が収まり、観光客で賑わう有馬の街を、ジェラート片手に心置きなく散策出来る日が戻ることを祈りつつ。

『七人の心一つに BE ARIMA』

## グリーンインフラとまちづくり

GI-5 勝島 眞一

欲しいものや情報は何でも手に入り、私たちは便利な世の中に浸っています。しかし、自然環境を身近に感ずることが難しく、潤いに欠け、住みにくい環境であると感ずることは少なくないと思います。

—自然の力を活用して、地域を元気にする—

私たちが学習テーマに選んだテーマは「グリーンインフラとまちづくり」です。



環境を守るだけの存在とせず、安全で活力のある地域づくりを基本理念としています。まだ一般には広く知られていないグリーンインフラについて、私たちは海外の先進国の実施例を文献で調査することから開始し、日本の実施例については専門家や自治体の推進者に計5回にわたる講演をお願いし、米原、京都、豊岡等へのフィールドワークを行いました。

グリーンインフラには様々な形態がありますが、兵庫県内にも代表的な次のものがあります。皆様、是非関心を持って下さい。

- (1) 豊岡市コウノトリ共生事業
- (2) 六甲山系グリーンベルト整備事業
- (3) 三宮・東遊園地再整備計画 (2023年完成予定)

## ◇美術・工芸専攻◇

事前打合せの段階でクラスに潜り込ませていただき、発表会リハーサルの様子を見学させていただきました。

それぞれのチームが、コロナ禍で半年に限定された短い期間の中で、考えに考えたテーマに沿って、色々な土を手に入れ、色々な釉薬を駆使して、土をコネ、ロクロを回し、形を整えて、焼き上げた作品は秀逸です。そして、作品の一つ一つに相当な苦勞がされていることが目に見えるようでした。

先輩方の3年間の集大成である卒業制作展は3月3日から19日まで、ふれあいホールで開催され、先生やOBの方、現役学生の皆さんにご覧いただきました。

(美工27期 林 誠一郎)

### 縄文から“現代アート”へ1万6千年の旅

縄文ルネサンス 小島 宣治

縄文時代の歴史と土器・土偶（国宝6点）の調査&作陶を通じて、縄文の作風・技法に触れるとともに、縄文時代からあった漆技法にもチャレンジし、“現代アート作品”として表現することを目標に活動しました。

土器・土偶の作陶に際しては発掘調査報告書等の資料



で研究し技法の再現に努めましたが縄文時代の作陶技術の高さに感服しました。

また、漆技法の調査の過程で素焼漆器の強度は本焼堅締めより高いというレポートを見つけ、本当に強度が高くなるか、実証実験で確認しました。漆の強制乾燥方法や条件出しも皆でアイデアを出し合い、実験に取り組みました。

現代アート作品作りについては、「陶芸を楽しもう！」を合言葉に各自が感じたものを自由に作品化することとしました。作陶に際しては 毎日当日の作業計画、進捗状況と反省会を繰り返し、各自のアイデアとコンセプトの実現に向け、皆で助け合いながら進めました。

でき上がった土器・土偶や全員の現代アート作品を一堂に並べた時は感激の一言しかなく、達成感・満足感が沸き上がってきました。グループ活動でしか得られない貴重な体験であり、陶芸の楽しさを実感することができました。



### 七輪陶芸の実践

男女7輪陶芸物語 駒井 博

陶芸は、一般に作陶、素焼き、釉薬掛け、本焼きと工程が多く、中でも焼成には電気窯、灯油窯、ガス窯、登り窯、穴窯といった大掛かりな窯が必要となり場所の確保が必須です。



七輪陶芸グループ（愛称：男女7輪陶芸物語）は、高価な焼成窯が無くても簡単な器具を用い、安価に家庭で陶芸が楽しめ、いつでも簡単に焼成ができる手法として知られる七輪陶芸に注目しました。

卒業後も家庭で楽しみながら作陶できるよう、七輪窯を使用し、効率よく作品作りができる器具、粘土、釉薬を見出し、素焼き、本焼きの手順を確立することを目標としました。



カレッジ校内で暑い8月から寒さ厳しい12月まで自然環境に左右されつつも、手袋、長袖、帽子、メガネなどの着用がコロナ対策とも一致し、和気あいあいと実験ができました。

最初は、粘土が溶けたり、作品が破裂したり、火の回りが悪く温度が上がらなかつたりと思うようにいかなかったのですが、実験回数30数回でみんなが納得する作品が出来上がる

よくなりました。七輪から立ち上がる炎、真っ赤に焼けた作品、溶けた釉薬の輝きなど、手作りの陶芸を楽しめたのとても良い経験でした。七輪陶芸は、童心に戻れ、癒やし効果抜群でした。

## 「スリップウェアについて」

### 愉快的な6人の陶芸家たち

SW シックス 平松 静恵

スリップウェアとは粘土に水を加えてクリーム状の泥漿(スリップ)にしたもので器(ウェア)を装飾した陶器全般を言います。17～19世紀ヨーロッパで発展し、イギリスの食器が特に有名でした。日本ではバーナード・リーチが民藝運動の中で広めていき、現代の陶芸家が個性的な作品を各地で生み出しています。

私たちはまず基本的なスリップ文様で実用的な日常食器を作り、伝統的なスリップ文様が習



得できたら、現代的な文様にもトライしてみることにしました。

コロナ禍のため、7月から活動を開始し、8月にテストピース制作、9月に本制作の1回目、2回目へと進めましたが、この間、乾燥段階で加飾したスリップが作品粘土から剥離するといった事例に悩まされました。この問題もスリップを変えることにより解決し、10月以降の本制作3～5回目ではスリップ剥離も発生せず、40個以上の作品を完成することができました。

今年は短い期間のグループ活動でしたが、6人が結束して取り組むことができ、貴重なカレッジでの思い出を作ることができました。市野先生、サポーターの皆さん、事務局加藤さんに改めてお礼申し上げます。



## 「愛と絆」……好きなんだな

### あの気持ちを立体レリーフで表現

陶板カルテット 内村 亮一

25期生の卒業制作に最も影響を与えてくれたのが「コロナ禍」です。

この時期、万物との「絆」を感じつつ「愛」を表現するのが、我々のグループ学習に最もふさわしいので



はないかと考えました。動物の親子の愛情、仲間同士の絆を連想させる情景を、円形の陶板に立体レリーフにして表現しました。

植木鉢受けを使って陶板を作成し、着色は下絵付を基本として、釉薬は透明釉の石灰3号を使用しました。テストピース制作は直径15cmで、2種類以上の粘土を試してみました。本制作は直径30cmに統一して、下絵付は緑系統の絵の具では本焼き時に縮んで剥がれやすいので、場合によってはガラス片を使用しました。釉掛けはコンプレサーによるスプレー掛けを中庭で実施しました。

3年生の自主学習では、電動ろくろを苦勞して駆使し、大物の作陶にもチャレンジしまし



た。本焼き後の作品を見て感動したことは一生忘れないでしょう。

卒業後は、これらの作品を家に持ち帰り、一番目立つ壁にかけて家族たちに自慢したいと思います。今後も陶芸に関わりながら、「継続することが大事」と言われたことを忘れずに精進します。

3年間ご指導していただきました赤松先生、市野先生、サポーターの皆さん、加藤さんに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## LOVE 練込

練込グループ 宮本 敏子

「練込(ねりこみ)」という技法をご存知でしょうか。昨年はテレビ番組にも取り上げられ、注目されています。

私たちは、陶芸初心者が容易に作ることできる「練込」の模様や方法を学習し、作陶する過程を実践しました。



コロナ禍のため基本段階の作陶後の応用段階は個人の意欲・能力による自由制作になりました。

基本はタタラ作りですが、実際には工程が数多く、時間と手

間がかかります。模様をきれいに出すために水のみで接着しますので、乾燥とともに剥離、ひび割れが起こります。失敗の繰り返しでコツが分かり、徐々に成功率も上がり、次の応用作品へとつながりました。

「練込」は陶芸にとどまらず、デザイン性、絵画性もあり、基本の習得さえできれば、自由な模様、形へと無限の可能性を感じます。卒業後も「練込」を探究していきたいと思います。そして後輩の皆さんの中から「練込」を学習課題にされるグループが出てこられることを期待します



## ◇音楽文化専攻◇

3月5日、カレッジホールで25期生卒業演奏会のリハーサルに参加させていただきました。コロナ禍で多くの制約がある中、7月からそれぞれの課題に向けて練習に励み、どんな悪条件にも負けない！という気合が入った素晴らしい演奏でした。

「北風」をテーマにした和太鼓の演奏では嵐のような激しい風に立ち向かう力強い姿を感じ、「夜明け」をテーマにした打楽器の演奏では歌と手拍子を交え、まさにコロナ鬱を吹き飛ばすかのごとく陽気で軽快なリズム感溢れる演奏でした。そして、「若い広場」と「瑠璃色の地球」の合唱では、共に学んで来た道のりを思い描きながらハーモニーを奏でているようで、感動しました。

(音文 26 期 和泉 由美子)

## 和太鼓グループ

チーム名 風太鼓 25  
演奏曲 「北 風」  
作曲 松村 公彦  
指導 松村組 松村 公彦 先生、  
松村 初恵 先生、鳥居 侑平 先生  
リーダー 賀川 郁夫、塩崎 克子



音文 25 期和太鼓グループ「風太鼓 25」が演奏した曲は「北

風」です。この曲は、3年間仲間と共に過ごした学舎への思いと、時には寒い風も吹く「しあわせの村の自然」をイメージして、松村公彦先生が作曲されたものです。

7月半ばからやっと始まった学習は、男性6名、女性12名で、ほぼ全員が和太鼓を叩くのは初めてでした。

感染予防のため、マスク着用を余儀なくされ、息苦しさにも耐え、テンポ取りに苦勞し、加えて検温・換気・消毒と例年には無い作業にも気がつかないながら、それでも懸命に練習を続けました。その厳しさの中で私たち「風太鼓 25」はお互いが相手を理解し、より団結力を深めることができました。

いろいろな思い出のある3年間、コロナにも負けずに仲間と頑張った演奏曲「北風」。“強い風”“優しい風”“爽やかな風”...と、いろいろな風”が見る人の心に響きわたることを願いながら全力で演奏しました。



観客は音文の在校生のみと、例年に比べて少人数でしたが、力を出し切った演奏後に割れんばかりの拍手を頂いたときの感動は、決して忘れることはありません。

これもひとえに先生方の熱心なご指導と何かとお世話を頂いた事務局の方々のおかげだと、深く感謝しております。本当にありがとうございました。

## パーカッショングループ

チーム名 Alba (アルバ) …夜明け  
 曲名 「O Sole Mio」、「You Are My Sunshine」  
 編曲 山中 佑起子  
 指導 山中 佑起子 先生、柏木 菜穂子 先生  
 リーダー 長野 義則、品川 和子



「Alba (夜明け)」は女性 12 名、男性 5 名の明るく元気な仲間です。

7 月末の初回授業では、「卒業発表会での演奏」および「グループ学習のまとめ作成」の 2 大目標が確認され、身が引き締まったことを思い出します。



8～9月は、練習のみならず、「組織づくり、練習計画、情報の共有化方法、楽しい雰囲気作り」等を話し合い、立案・実施を繰り返して基盤を作って行きました。

例年より 4 カ月遅れのスタートで、「演奏会に間に合うのだろうか」と不安がる仲間もいましたが、「やれば、できる」と信じ、概ね週 2 回、8 カ月間で合計 50 日ほど (のべ約 150 時間) の自主練習を重ねました。明るく楽しい雰囲気の中で「励まし合い、教え合った」ことで、次第に上達して行きました。いつも心待ちにしていた月一度の山中先生と柏木先生の実習と講義は、厳しいながらも楽しかったです。受講のたび、確実に上達進度が早まりました。

パーカッションアンサンブルにアレンジされ、世界中で愛される名曲「O Sole Mio」と「You Are My Sunshine」を、さまざまな打楽器の合奏で発表できました。合奏を通し、コミュニケーションの

重要性や音楽を構築する喜びも実感できました。「グループ学習のまとめ」には、練習記録として写真などもたくさん盛り込み、メンバー全員で綴った思い出深い冊子に仕上がりました。

先生方や、竹内さんはじめ事務局からの惜しみない応援に、ありがたく感謝申し上げます。

## 合唱

チーム名 ソレイユ 25  
 曲目 「若い広場」、「瑠璃色の地球」  
 指導・指揮 斉田 好夫 先生  
 ピアノ 中村 真実 先生  
 リーダー 北中 和久、津田 節子



8 月から 3 年生最後の卒業演奏に向けての合唱練習がようやく始まりましたが、一般のコーラスグループからも新型コロナウイルス感染が開始したことを知り、練習は無理なのではないかと思っていました。

9 月から、徹底したコロナ対策のもとで授業も本格的に始まり、曲は「若い広場」と「瑠璃色の地球」になりました。

どちらも今の私たちが歌うにはとても勇気と希望が持てる素敵な曲です。これが披露できたらどんなに素晴らしいだろうと、内心嬉しく思っていました。しかし、現実的にはやはりディスタンスやシールド板の設置、マスク着用で歌うのは、合唱として辛いものでした。合唱は各パートの音色や歌詞を表現し、ハーモニーを楽しみ、そして少しでも聴いてくださる方に感動を与えられるように歌いたいと常に考えています。

ようやく 3 学期に入った頃から、フェースシールド着用でディスタンスを取った演奏形式でも合唱を楽しめるようになってきました。

私たちの集大成の合唱が上がり、皆さんに聴いていただくことができて嬉しい限りです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



## ◇園芸専攻◇

新型コロナウイルス感染症対策の影響により今回の園芸専攻のグループ学習発表会は初めてカレッジホールという大きな会場で実施することになりました。発表会本番を待っては間に合いませんので、事前のリハーサルに出席させていただきました。

今年度は春先から夏休みまで休校となり、例年と異なり秋作物を使った栽培研究になりました。栽培期間、まとめの期間共に短く、また多くのグループは農園に侵入した小動物による被害を受け苦労されたようです。5つのグループがパワーポイントにうまくまとめて多少戸惑いながらもほぼ目標時間通りに収めて発表されました。リハーサルなので先生方はご臨席されていませんでしたが、本番では厳しい質問と暖かいコメントをいただけることでしょう。

(園芸 26 期 片山 康)



### トウモロコシの作期限界栽培

1 班- 1 大畑 盛穂

昨年 2 月ごろに研究テーマとして選定したのは、「ジャガイモはいつまで作付けを遅らせることができるか」でした。コロナ禍のため 9 月からの授業開始となり、「トウモロコシの作期について、いつまで栽培できるか」を研究テーマとして改めて選定しました。家庭菜園でトウモロコシを作る場合は、4 月中旬にポットで 3 週間程度かけて育苗し、5 月初旬に畑に植え替え、7 月初旬から中旬に収穫する流れで栽培しています。今回はお盆明けからスタートして、播種時期を 2 週間単位で遅らせていつまで収穫できるかを比較検討しました。

トウモロコシの生育適温は 22～30℃ですが、今回の研究の結果、①20℃超え、②20℃以下、③15℃以下、④10℃以下で大きく成育状況に変化が現れました。また、氷点下で霜が降りますと今まで青々としていた苗が一晩で枯れてしまいました。

シルバーカレッジの農園では、お盆明け以降 8 月末までに播種し、20℃を越える平均気温の環境で大きく育て、15℃から 20℃の平均気温の環境で結実させることが必要と考察しました。それぞれの作物が成長するためには気温の要素が大切ですね。



トウモロコシ高さ測定



畑に集合

### 結球レタスの最適播種時期の研究

1 班- 2 木下 誠之助

結球レタスはリーフレタスに比べ栽培が難しく、結球しないケースもあると言われていますが、私たちはあえて難しい結球レタスの栽培に挑戦しました。

9 月上旬から 1 週間毎に 4 つの区画に種をまいていきました。初回はマルチを張った畝に穴を開けて 9 月 2 日に種をじかにまきましたが、午後に激しい夕立があったためほとんどの種が流されてしまい発芽しませんでした。これ以降はプラグ・トレイに播種し苗を育て、約 3 週間後に逐次定植を行い、生育状況を観察しました。播種して 11 週間後から毎週中間収穫を行い、結球部の重量、高さ、周長、葉の枚数の計測を行いました。

レタスの発芽適温は 20℃、生育適温は 15～20℃とされています。9 月 11 日に播種した試験区のレタスは順調に育ち、結球重量 400 g を超えるレタスを収穫できました。しかし、彼岸を過ぎて播種した試験区のレタスは気温が低くなったこともあり生育の速度が遅く、9 月 25 日に播種した試験区の球は小さく、10 月 2 日に播種した試験区は結球しませんでした。

市販品と同程度（結球重量 400 g 以上、結球葉 20 枚程度）のレタスを収穫するのに最適な播種時期は 9 月 10 日から 9 月 25 日であることが判明しました。9 月上旬は発芽適温を超え、彼岸を過ぎる頃になると生育適温を下回ることが多く、生育不良になるためです。



レタスの断面



肥料を入れて耕運作業

## ブロッコリーの生育と温度条件

2班-1 池田 聡

ブロッコリーはある程度成長してから花芽分化をしますが、一定の低い温度を必要とします。そこで、ブロッコリーを露地と温室に分けて栽培し、温度条件の違いがどの程度花芽分化に影響するかを検証することとしました。

温室のブロッコリーは順調に成長しましたが、露地のブロッコリーは小動物の被害に遭い成長がバラツキました。やがて、外気温が 10℃を下回るころになって温室、露地共に花芽分化が観察されました。

当初は、温室は気温が高いため露地よりも花芽分化が遅れると考えていましたが、予想に反して温室の方が露地よりも早い結果となりました。これは、夜間に温室の最低温度が外気温と同じレベルまで低下したためと分かりました。露地の方も小動物被害に遭うことなく成長していれば、温室の方とこんなに差が生じなかったものと思われそうです。

ブロッコリーの収穫時期も温室栽培は 11 月下旬まで、露地栽培は 12 月下旬までとなり、お正月までに十分収穫が可能となりました。



露地栽培 温室栽培



ブロッコリーを前に

## ダイコンの袋栽培と露地栽培の成育比較

2班-2 田中 弘一

ダイコンの袋栽培と露地栽培の成育比較、袋栽培の最適栽培本数を調査し、袋栽培が家庭園芸に採用できるかを調査しました。

休校の影響なのか獣害がひどく、露地植えの半数以上が被害に遭いました。何とか研究用の数は確保できましたが、その対応に追われました。

露地栽培は株間 30 cm、袋栽培は 1 本～4 本植えで栽培しました。露地栽培はダイコン本体の平均重量が約 1.5kg と十分な成育でした。袋栽培は幸い獣害にも遭わず成育は順調でした。袋栽培の 2 本～4 本植えの袋毎の平均総重量は 1 kg 超えとなり、露地栽培の平均重量の 73%でしたが、家庭園芸において不足は感じないレベルの結果でした。

袋栽培では個体の大きさを調整でき、形はほぼ同じです

ので、料理などに使用するには便利です。袋栽培は管理作業もほぼ予定通り推移し、特に難しい作業もなく、家庭の庭先で簡単に取り組めることがわかりました。袋栽培は他の植物の育成にも挑戦できる栽培方法として十分に推奨できる方法であると言えます。今回は 9 月以降栽培を開始し、年内での収穫と慌ただしい日々でしたが、十分な結果と収穫物が得られ満足できた調査でした。



畑のダイコンと共に



袋栽培

## 秋冬どりダイコンの収穫に及ぼす播種時期、マルチ及びコンパニオンプランツの影響

3班 吉川 潤一

2018 年 4 月 8 日入学式から、25 期園芸専攻 3 班 12 名の新たな出会いとともに学生生活が始まりました。

平成、令和の元号をまたぎ、また新型コロナウイルス感染症対策としての一時休校や不自由な授業体制を乗り越えてきましたが、3 班はさまざまな理由により 7 名が去り、残る 5 名で肩を組みながら 3 年間にわたる学習活動を行ってきました。

特に、グループ学習のテーマ「秋冬どりダイコンの収穫に及ぼす播種時期、マルチおよびコンパニオンプランツの影響」では、栽培経験のあるダイコンの増収に関する 3 つの課題である「播種時期」「マルチ」「コンパニオンプランツ」を同時に採用して、小動物の被害にもめげないで、農園作業と収穫後のデータまとめを『協働、貢献、思いやり』の精神で行ってまいりました。



研究畝にて

卒業後3班5名はそれぞれの道を歩むこととなりますが、今後の人生にシルバーカレッジの思い出が『励まし』として残ることを期待し、卒業までの残り少ない学生時代を過ごしていきたいと思っています。最後にご指導を賜りました阪上先生、金地先生はじめ諸先生ならびに事務局の前垣様、サポーターの方々に心より御礼申し上げます。



収穫したダイコン

## ◇食文化専攻◇

グループ学習発表会のリハーサルを3月1日に見学しました。本年度は、例年より遅い7月に説明会がスタートしました。健康寿命100年時代をコンセプトにして、鶏卵、牛乳・乳製品、魚、豆の4グループのテーマに分かれて、食材の歴史、特色を調査し、それを使った各種の料理を作成し、フィールドワークなどを行いました。コロナ禍によるいろいろな制約があるなかで系統的によくまとめられていました。また、グループの絆を強めて楽しんで学習された様子が感じられました。

一方、先人達が生きるために築き上げた食文化の素晴らしさを再認識させられました。

(食文27期 中田 賢和)

### 栄養豊富な鶏卵(玉子)を食べて、 ランランと目指せ健康寿命100歳!

ランラン 庄田 洋一

私たちはグループ学習を通してさまざまな玉子料理を体験することができました。

卵は消化吸収が良く、かむ力が弱くなった方や体力が落ちて胃腸の働きが弱い方でも、必要な栄養素をバランス良く手軽にとることができます。さらに、和・洋・中どんな料理にも無理なく調理できます。全国の100歳以上の長寿者には毎日欠かさず卵を食べている人が多いことも報告されており、卵は理想的な栄養価をもつ上に消化吸収が抜群です。

シニア世代は、食が細くなったり好みが変わったり、食事づくりがおっくうになったりして、どうしても栄養バランスが乱れがちになります。だからこそ卵を上手に取り入れて、量より質の充実した健康的な食生活を送りたいものです。卵は安価で手軽な食材なので、シニア世代が丈夫で長生きするための力強いサポーターと言えます。



### 人生百年時代の健康戦略 牛乳・乳製品の積極的活用

ミルクロード 山本 隆一

コロナ禍で、グループ学習が始動したのは、7月16日からです。ミルクロードチーム全員(女性5名、男性3名)が議論を重ね、グループ学習のテーマのコンセプトを「明るく、楽しく、身近な食材で簡単調理」に決めました。

グループ学習で一番困ったのはフィールドワーク先の選定でした。生乳生産の牧場2カ所は決まったのですが、牛乳・乳製品の製造工場の見学はコロナ禍でほとんどの企業が工場見学を中止しており、その中でチームメンバーのつてを頼って、見学できる企業を見つけることができ感謝です。

フィールドワークを通じ、酪農家の情熱と地域社会とのつながりの大切さを学び、視野が広がりました。

料理探訪については、女性陣から探訪先を告げられ、男性陣の出る幕はなかったですが、グッドチョイスで脱帽です。



## 魚をおいしく食べて健康に過ごそう！

おさかな研究会 小仲 貴雄

運が良ければ 100 歳も夢ではない時代になりました。最新の統計によると、平均寿命もまだ少しは伸びているとのことです。

寿命が長くても、健康でなければ何も意味は無く、健康寿命を如何に延ばすかがこれからの課題です。健康に過ごすには、バランスの良い食事をしっかりとることが最も大切です。

我々「おさかな研究会」は、魚介類の特徴である高たんぱく質、低カロリー、種々の機能性成分に注目し、伝統的な魚食文化を踏まえて、購入しやすい素材を使い、高齢になっても簡単に調理出来る美味しい魚料理を検討することにしました。

メンバーに魚の目利きのプロがおられて、料亭仕様の鮮魚やサプライズの素材を含め、ふんだんに調理出来たのは大変ラッキーでした。

調理実習は毎回素敵に仕上がり、メンバー全員、大変満足のいく味わいでした。特に鰹や鰯料理の美味しさが印象に残っています。

フィールドワークでは明石の魚料理店、赤穂の塩の国、市内の練り製品工場の 3 カ所しか訪問学習を行えなかったことが心残りです。出来れば、兵庫県を代表するハタハタ、ホタルイカ、ズワイガニなど、日本海の魚介類についても学びたかったです。短い『おさかな研究会』のグループ学習でしたが、8 人全員楽しく活動が出来て、大変有意義でした。

*We love fish, forever!!*



## 世界の豆料理を味わい調理することにより豆類の栄養素を生かして免疫力 UP と健康長寿

ま〜めいど 小藪 孝明

1 学期が休校となり、休校中の 7 月にグループ学習の説明会が開催されましたが、本当に 2 学期から学校が再開できるのか？大きな不安の中でグループ学習をスタートしました。テーマ選定ではキーワードとして、次の 3 つを考えました。

- ・豆の栄養をとる
- ・健康長寿を目指す
- ・世界の豆料理を味わう

神戸は港町で色々な外国料理店があります。ここで世界の豆料理を食べたいと始めましたが、誤算も色々ありました。世界の豆料理を食べると張り切りましたが、煮込み料理が多く豆でなかなかメインの料理になっていませんでした。また、豆に関わる工場や施設を色々見学したいと思っていましたが、コロナ禍の影響でフィールドワークの見学先がほとんど受付を中止していました。

そんな中で、普段食べている日本料理の良さに気づかされました。豆をそのまま料理したり、加工したりと様々な形にして食べていました。昔からの日本人の食生活の素晴らしさを実感しました。

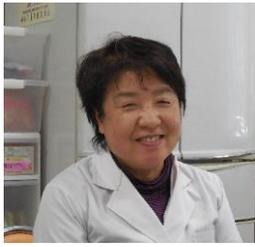
9 月からのグループ学習開始で日程的にかなり押し詰まった感があり、かなり忙しい思いをしましたが、充実した日々でした。無事、グループ学習を終えることができたのは、学校関係者の皆様のサポートと、食文化 25 期の皆さまの団結と、何よりも『ま〜めいど』グループの皆様のおかげです。ありがとうございました。



**編集雑記：**「爽風」3 月号は卒業式に配布することを第一条件としました。しかし、3 年生の主要活動であるグループ学習の発表会は、卒業式までに 1 ~ 2 週間しかないため、リハーサルの様子を感想文にしました。

「爽風」作成の中心となってきました 2 年生は本号を最後に一步退きます。半年間の発行でしたが、計画が次々と変更になり、2 年生から委員になった方の訓練期間も不十分なまま走ってきました。記事を依頼しました講師、サークル、各クラスのかたがたなど、皆さまのご協力を心よりお礼申し上げます。また、事務局の皆さまには、適切な間合いで常にサポートしていただき感謝に耐えませぬ。頼りない編集責任者をサポートして活動してきました 2 年生の委員を以下に記します。

(健福) 石川広次・菊澤啓二、(国際) 寺地信夫・佐野修、(生環) 梶野昌利・難波巨由、(美工) 柴谷浩太・林英一、(音文) 竹原卓彦・和泉由美子、(園芸) 北井健二・片山康、(食文) 杉山健・新谷裕和



## 食文化専攻 清水 典子 先生

神戸女子大学卒業、同校および神戸女子短期大学の講師、准教授。  
専門分野は家政学、生活科学、特に栄養士、管理栄養士になるための教育。  
2020年4月から神戸市シルバーカレッジの講師。

### 興味のある研究分野はどこですか：

特に、子どもや高齢者などを対象にしたライフステージ毎の食育に注目しています。

### 若い時の夢は何ですか：

若い時から一つの夢をもってその方面へ進んできたわけはありません。その時々状況を判断して小さな夢の実現を考えてきました。

### 趣味、特技は何ですか：

若い時から寄席が好きで、東灘や元町の寄席によく通っていました。もう一つは、組みひもの制作です。着物の着付けを習っており、その延長で組みひもを始めました。また、食べることも料理をすることも大好きです。三宮界隈を食歩

きをしたり、明石の魚の棚へ買い出しにも頻繁に行きます。

### シルバーカレッジの学生へ：

チャレンジ精神をもち、自分で考えて、人生を楽しんでほしいです。今年度よりシルバーカレッジの講師となり、生徒から力をもらっている状況です。

### — 記者の印象 —

シルバーカレッジの講師を始められて半年が経ち、非常に張り切っておられました。全学年を受け持ち、各授業の予習をされているとのこと。調理実習では生徒と話す時間は短い、3年生のグループ学習では学生との距離が縮まったと感じておられるようでした。

(食文 26 期 杉山、食文 27 期 中田)



## 美術・工芸専攻 市野 哲次 先生

嵯峨美術短期大学、瀬戸窯業職業訓練校卒業。日本工芸会正会員。兵庫県展神戸新聞社賞、日本伝統工芸近畿展新人奨励賞、伊丹国際クラフト展白雪酒永代賞帖仕込み賞、神戸ビエンナーレ「現代陶芸展」審査員特別賞、兵庫県芸術奨励賞など多数の受賞歴。丹波立杭焼 悟窯 第4代継承者。趣味はランニング。

丹波立杭焼は中世から現在まで生産が続く「日本六古窯」のひとつで、現在でも 60 軒ほど窯元があるそうです。その窯元のなかでも、先生は悟窯（さとるがま）の4代目継承者です。先生の作品は、「彩色線象嵌（さいしよせんぞうがん）」という装飾技法を駆使した幾何学模様のとともモダンな作風です。

家業を継ぐこと、伝統と新しい取り組み、陶芸の楽しさ、趣味などについてお話をお伺いすることができました。

### 家業を継ぐことについての葛藤はありましたか：

子どものころから馴染んでいましたし、地域にも同業者がたくさんいる環境でしたので、自然の成り行きでこの道に進みました。はっきりと自覚が芽生えたのは、高校3年になって、受験のためにデッサンなどを始めたころだったように思います。

### 大変モダンで明るい作風ですが、立杭焼の伝統との間で悩まれましたか：

父も自由放任主義でしたし、立杭焼そのものが時代のニーズに合わせる進取性が特色でもあるので、まったく不安は

ありませんでした。公募展へ出品を続けていたころに、何とか独自性を出したいと試みの中で現在の形になりました。幸い評価も頂きましたし、振り返ってみれば、チャレンジしてよかったと思っています。

### 趣味や特技は何ですか：

中学は野球、高校では陸上部とスポーツが好きでした。地域の篠山マラソンには毎年参加していました。ホノルルマラソンにも参加し、3時間40分で完走したことがあります。今でも、5～6キロ程度のランニングをしています。

### 初めて陶芸に触れる学生にひとことお願いします：

土のかたまりから始まり、すべて自分の手で形作ることの楽しさを味わってください。最初に、作りたいもののイメージを持ち、土を選び、デザインを考え、釉薬や装飾方法を考え、焼成してみる。思いどおりにできないかも知れませんが、失敗はつきものです。その繰り返しの中に新しい発見もあります。

(美工 26 期 柴谷、美工 27 期 林)

## 2020年度 ジョイ・ラック・デイズ

### — 開催の経緯と反省 —

従来 1日だった「ジョイ・ラック・デイ」が、1月13日から3日にわたり「ジョイ・ラック・デイズ」として開催されました。これは、新型コロナにより学園祭などが中止となったことで、今後の事業継承が難しくなることを心配した事務局の提案を受け、ボランティアセンターと学園祭委員会が企画・運営して実施したものです。

当初、休日の1日開催の案もありましたが、過密を避けることから、クラブ活動の一環と位置づけ、授業終了後の時間帯を使って平日の3日間とし、出演者数や観客数の制限、透明シールド板の設置、出演者も観客もマスク着用、入り口での手指の消毒、使用後の座席の除菌の徹底など感染予防対策に万全を期しての開催でした。

今回は制約が多く、出演希望や展示の申し出を調整せざるを得ませんでした。また、ホール入り口などで過密状態となったり、人数制限のためホールへの入場をお断りしたケースもありましたが、1年生も計画準備段階から参加し、今後の学園祭開催準備への橋渡しはできたように感じます。

練習の時間・回数、会場の音響、窓の解放、観客数の違い、マスク着用での演奏など、従来と違った条件での開催でしたが、後々、「コロナ禍でも負けずにジョイ・ラック・デイズを開催した」という実績が、出演者、観客、実行委員、並びにすべてのカレッジ関係者の方々に対して、今後の大きな原動力になるでしょう。（※ボランティアセンター役員・学園祭委員からのコメントより）

なお、活動の様子は、以下の内容とP24の写真をご覧ください。

### （ステージでのパフォーマンス）

#### 第1日目 -1月13日（水）-

出演団体： 演目	演奏者数	鑑賞した記者の感想等
民謡同好会 「ソーラン節」など	琴4人、三味線 1名、尺八3名	尺八を演奏している人以外はすべてマスクを着用し、ステージは前後約1メートル、左右2メートルほどの距離を開けて演奏されました。
フルーツクラブ・フルーツパ フェ：「君をのせて」など	11名	感染防止の観点から、フルーツの歌口に不織布のマスクを巻き付けて演奏していました。若干音色がこもりがちに聞こえましたが、ハーモニーは良かったです。
フォークソング クラブ 「白い冬」、「岬めぐり」など	各学年 7～ 9名	学年ごとにステージに上がり、それぞれ1曲ずつ演奏。ギターはアンプがありよく聞こえましたが、歌声があまり届かなかったのが残念でした。
謡曲クラブ 銀謡会 神戸が舞台の謡曲	9名	男女とも上下黒に白シャツ、男性は黒の蝶ネクタイで、衣装を統一していました。マイクを使っていたからか、滑舌がしっかりしているのでよく聞き取れました。
アロハ・ハワイアンズ 「ビヨンドザリーフ」など3曲	演奏、歌手、ダン サー（6名）	アロハシャツ、レイ、髪飾り、特にダンサーのお揃いのスカートが華やかで、舞台を彩っていました。マスク着用のダンスも、後々、思い出になる日がきっとくるでしょう。
オールドィーズクラブ 「トップオブザワールド」など	14名	『最終ステージでは無観客になると心配していましたが、入り口で立ち見の人いるくらいで良かったです』などとジョークを交えたメッセージが印象的でした。

#### 第2日目 -1月14日（木）-

軽音楽クラブ 「スイートメモリーズ」など	7名	発足して6年。アコーディオン、トランペット、サクソフォン、ドラム、ギターで編成。軽快なリズムとバランスの良い音量、しっとりとした演奏で非常に良かったです。
健福オカリナチーム 「亜麻色の髪の乙女」など	6名	しあわせの村内の福祉施設を訪問する目的で活動している。3曲とも伴奏のBGMに合わせての演奏でした。
トニー&レイニー 歌、トーク「岬めぐり」など	2名	シルバーカレッジに入学後にカップルになった新婚さん。奥さんがウクレレ、ご主人はギター片手に、二人で歌とトークのスタイルでした。
アンサンブル 「しあわせ運べるように」など	14名	女性は白ブラウスに黒のスカートかパンツ、男性は上下黒の衣装で統一していました。10種類の楽器編成なのに、バランスよくまとまりのある演奏でした。
男声合唱団 「北の国から」など	14名	マスク着用、人数制限、前後左右距離を開けるなど制約が多い中での合唱は、ハーモニーを確認することなど辛く大変だろうと感じました。

ハーモニカグループ 「長崎の鐘」など	13名、途中出演者の入替あり	全員がフェイスシールド着用でした。練習時間に制限がある中での本番でした。「しあわせなら手をたたこう」が始まると、会場から自然と手拍子が鳴っていました。
-----------------------	----------------	---

第3日目 -1月15日(金) -

邦楽クラブ (琴・三絃) 「さくらさくら」など	琴4名、三味線1名、尺八3名	尺八以外はマスクを着用しての演奏でした。尺八クラブとの合奏は、よく息がっていました。日本特有の伝統的な音色で懐かしいメロディが心地よかったです。
フォークダンスグループ 「ゼメルラップ」など3曲	10名	マスクを着用した民族衣装でダンスや、タンバリンを使ったイスラエルのダンスもありました。懐かしのマイムマイムに、会場もみんな手拍子をして楽しんでいました。
手話ソング 「小さな世界」など	曲ごとに、14名が配置変更	マスクを着用して手話のロゴがついた赤のTシャツと黒のパンツで演技、手だけでなく全体で表現しようという気持ちが伝わってきました。
KSC 太極拳クラブ 太極拳表演：簡化24式	前半10名 後半10名	3分間の換気後に演技が開始されました。マスク着用して赤白のTシャツ姿です。曲に合わせて柔らかで流れるような動きが気持ちよさそうに感じました。
楽遊グループ (銭太鼓) 「ソーラン節」など3曲	8名	マスク着用しての演技でした。銭太鼓は出雲地方に古くから伝わる民俗的な楽器で、法被に鉢巻き姿で、テンポがよく楽しそうな雰囲気伝わってきました。

( 講義室での各種活動 )

( 下表の参加者数は、記者が参加した時点での参考人数です。 )

団体名等	参加人数等	記者の感想等
グループわ： 神戸大学の講師	約10名	「お口の健康」の講演があり、話す機会が少なくなっている最近の生活を考慮した適切なテーマだと思いました。
マジック同好会： 出演者約5名	約16名	準備された椅子はほぼ満席でした。教室という場所を考慮して、客とやり取りをする演技でした。マスクをしながらの演技は、やや聞きづらい点もありました。
陶芸ボランティア： 先生1名、サポーター8名	5~6名	ろくろを使った作陶を体験しました。準備に多くの労力をかけておられました。エプロンを借り、先生に教えてもらってトライしましたが見事失敗でした。
人形劇 ゆめ： 出演者約5名	観客約16名	予定時間になっても出演者は舞台準備で大忙しでした。ストーリーと振り付けは先輩が制作されたとのこと。これが文化の継承であると感じました。
茶道部： お点前1名、サービス6名	数10名 順番待ち	お点前を見ながら、椅子に座って、吟味されたお菓子とお茶をおいしく頂きました。6名ほどが同時に着席でき、次々と入れ替わっていきました。
救急ボランティアしあわせ： 指導者1名	5~6名	狭い部屋でしたが、人形を使って実演をされていました。指導者もカレッジの学生であり、ボランティアの見本ですね。
KOBE シニア元気ポイント	約20名(1回)	神戸市のリハビリセンター、介護施設、特養などの高齢者施設において、支援活動をする方を募集する活動でした。多くの方が支援登録をされていました。
ケナフの会： 指導者5名	5~6名	紙すきをしてしおりや葉書を作成する体験をしました。ケナフという植物は、繊維の利用、消毒液の作成など環境に優しい役割を多く持っているとの説明でした。

( ふれあいホールでの展示・販売 )

16 団体が出展し、多くの学生の興味を引いていました。



グループわ 環境部会 創エネ神戸



ケナフの会



絵手紙同好会

## グループわ だより

### ジョイ・ラック・デイズ企画（1月13日）

神戸大学大学院保健学研究科パブリックヘルス領域  
内田 一彰 様による講演会を行いました。

「健康づくりのためのレクチャーと実践」のテーマで嚙下  
（えんげ）機能の改善方法、体操など約 20 分間の講義  
を 4 回実施しました。

分かりやすく、丁寧な  
講義と実践をしていた  
だけ、約 40 名の参加  
者が熱心に聴講、指  
導を受けました。



### フレイルチェック会（12月～3月）

11 月から各区での市民サポーターによるフレイルチェク  
会が開催されました。神戸市の指導のもと、感染防止策を

十分にとるため、参加者を絞り、またサポーターも少人数で  
チェック会を運営しました。

ーチェック会の実施状況ー

- ・実施済は、西区、兵庫区、東灘区、北区。
- ・緊急事態宣言による延期は、垂水区、須磨区、中央区。
- ・3月予定は、灘区。



握力測定に挑む 90 歳の参加者

### 入会のお誘い

グループわ は、「再び学んで 他のために」を実践するため  
に、知識や経験を活かし、広く社会に還元するボランティア  
団体です。現在約 1,300 名が活動しています。数多くのグ  
ループの集合組織で、各グループが自主的に多彩な活動を  
実施しています。グループわ で一緒に活動しましょう！

会員の皆さんに活動の場と会員相互の交流の場を提供  
します。（申込）シルバーカレッジ 2 階 グループわ 事務所

## 永代 昌宏 先生のジョイフルクッキング 和えませ



### 《材料》4 人分

大根	小 1/4 本
人参	短 1/2 本
蓮根	少々
薄揚げ	1 枚
椎茸	3 枚
ピーナツバター	50 g

### 《調味料》

砂糖	少々
醤油	少量
みりん	少量
だし汁	少量

### 《作り方》

1. 昆布（10×5cm）をよく洗い 1 ℓ の水につけて、だし汁を作っておく。
2. 大根、人参は千切りにし、塩もみをしてよく洗い、しぼっておく。
3. 蓮根はいちよう切りにし、酢ゆでにして、ザルに上げておく。
4. 薄揚げは縦半分にしてから小口切りにし、湯通ししておく。
5. 薄揚げ、椎茸を煮つけて、冷ましておく。
6. ピーナツバターをボールにとり、砂糖、だし汁でのばし、少量の醤油、みりんで味を調える。
7. 大きめのボールの中に、水気を切ったすべての材料と、上記のピーナツバターを入れよく混ぜ合わせる。

### 《《注意事項》》

- ・材料はピーナツバターと混ぜ合わせる前に、水気を十分にとっておく。
- ・蓮根はゆですぎないこと。
- ・調味料は個人の好みで調整する。
- ・ピーナツバターの量は材料に合わせて調整する。

（食文 26 期 新谷 裕和）

# 《俳句クラブ》

☆ 兼題…冬または春の季語から自由に



舞ふ鶯の笛飄々と山笑ふ 大高 松男

隣家より救急車出づ春の闇 大高 松男

春めくや畑の凹みそのままに 中井 芳樹

コロナ禍の開花予想やカーラジオ 中井 芳樹

猪のぬた場に入りぬ探梅行 梶谷 ゆり子

友逝くや黄泉路を照らせ春の月 梶谷 ゆり子

台北や黄砂遙かに空染めて 日種 晁

春めきてシルエットあり木立かな 日種 晁

春雪やこもりし鳥に来る明日 高田 勝

雄岡山祠の脇に春の雪 高田 勝

花筏ダム湖に眠る我が母校 千足 恵美子

病む姉の背なに舞日散る寒桜 千足 恵美子

# 《川柳くらぶ》

☆ 研究句「胸」

あ、悲しい胸とウエスト反対に 神田 裕子

胸の内相手次第で溢れ出る 中井 芳樹

深い傷胸に居ついて震災忌 千足 千

胸たたき仲裁したがなおもつれ 吉田 謙

胸貸すよやってやるよと言えぬ我 横畠 和美

☆ 合同句会

街路樹に春の産毛かこぶしの芽 千足 千

街明かり別れの背中消さないで 中井 芳樹

ネオン街今は静かに眠る時 中井 芳樹

街灯の影踏み潰す別れかな 千足 千

街灯の明る過ぎるも良し悪し 吉田 謙

お賽銭それじゃ願いは書けぬぞよ 吉田 謙



# 《応募作品》

知地 正紘 (国際25期)

「十八歳と八十歳」

担任の言うこと聴かない十八歳

担当医の言うこと聴かない八十歳

わけもなく旅にでるのは十八歳

わけもなく徘徊するのは八十歳

授業中居眠りするのは十八歳

四六時中居眠りするのは八十歳

習ったこと忘れて悩む十八歳

聞いたこと直ぐに忘れる八十歳



野田 悦治 (生環26期)

「コロナ禍の遺産か？」

しんきつう(森喜朗) 夢まぼろしの露と消え

チエアマンも判断鈍り勇み足

(短歌) 雨垂れの音のみ響く寂しさや

カレッジ無き日は一人たたずむ

俳句・川柳募集中!

投稿はこちらから



## 《 トピックス 》

## 服部 祥子 学長のアフタヌーン・トークより

服部学長によるアフタヌーン・トーク講座が1月13日～2月10日に、25期学生を対象に4回に分けて行われました。

学長と学生がもっと身近に感じられるようにとの、学長の思いから自ら発案され実現しました。

精神科医でもある学長のテーマは、「やさしい精神医学」であり、フロイト、ユング、クレッチマー、パプロフ、エリクソン、カーナー、キューブラー・ロスの7名の心理学者による理論を紹介されました。



「病気と言われる人も無価値ではない。同一人を見る見方も千差万別である。人間は、一般論では語れない」との言葉が心に残りました。

## 事務局だより

## ◆25期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます

25期生267人の皆さまが、3月23日（火）卒業されます。学校生活での勉学やボランティア活動、クラブ活動などで、充実した日々を過ごされたと思います。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、限られた時間でフィールドワーク等のグループ学習を進めるという経験もされました。

今後は、健康に留意され、当カレッジのモットーである「再び学んで他のために」を実践されますことを祈念しております。

## ◆卒業記念品、ありがとうございます

3年生の皆さまから、卒業記念品として和室用にプロジェクター1台を寄贈していただきました。グループ学習やボランティア活動、クラブ活動、イベントなどで活用させていただきます。ありがとうございました。

## ◆ホームカミングデイを開催します

新型コロナ禍の影響で、昨年3月の卒業式が中止となった24期生の方について、卒業式に代わる「ホームカミングデイ」を3月24日（水）に開催します。

学長のあいさつやコース・専攻代表あいさつ、和太鼓松村組の特別演奏などが行われます。卒業後1年を経て再びご参集いただき、交歓していただく予定です。

## ◆感染症の感染対策へのご協力をお願いします

皆さまには、カレッジ内外における感染対策にご協力をいた

だいています。春は近いといえ、気温が低く、乾燥した時期は、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症が流行しやすい時期です。体調管理、3密の回避（特に食事のとき）、手洗いの励行、マスクの着用（特に飲食の最中の会話時）など感染防止対策の徹底により、安全で安心な学園生活の維持にご協力をお願いします。

## 図書室だより

近年、暖冬で推移したこともあり、今年の冬は例年になく寒いような気がします。そのうえ、コロナ対策のため入口や窓を開けるなど換気優先のため、利用者の皆さまには肌寒い図書室でしたが、ご理解をいただいたことに感謝します。

図書室の利用状況は、オンライン授業や、登校を控えたり休学者などの影響で減少しましたが、机を広く使えることもあり、新聞を読んだり、調べ物をされる方は通常どおりでした。

3月18日から4月11日まで休館となります。また、3月25日には昨年できなかった棚卸しを実施します。ご不便をおかけしますが、よろしくお願いします。

## ☆新着図書

- ＊人を育む人間関係論 服部 祥子：著 医学書院
- ＊神戸8人のパティシエが作るスペシャリテ64  
早嶋 茂：著 旭屋出版
- ＊遙かな海路  
神戸新聞社：著 神戸新聞社総合出版センター
- ＊歎異抄をひらく 高森 顕徹：著 一万年出版

## 《 投稿 》 形見の足踏みミシンをリユース

学内で古本と古着のリユース活動をしている「We love“もったいない”」より、以下のエピソードをいただきました。

卒業生より足踏みミシンを再利用してほしいとの話が、グループわ本部を通して連絡がありました。提供者Aさんは、母親の形見である足踏みミシンを電気のないアフリカで使っていたと希望されておられました。

調査の結果、丁度、東京のNGOが女性の命と健康を守る活動の一環として、全国的に足踏みミシンを集めてザンビアへ送る運動をしていました。AさんにこのNGOを紹介した結果、2カ月後にザンビアへと送られました。

この事例より、リユース活動は「思い出をリレーする活動」でもあると再認識させられました。

（We love“もったいない”代表 富川 修）



KSC 民謡同好会



KSC フルートクラブ・フルーツパフェ



フォークソングクラブ



KSC 謡曲クラブ銀謡



KSC アロハワイアンズ



KSC オールディーズクラブ



フォークダンスグループ



楽遊グループ (銭太鼓)



KSC 軽音楽クラブ



トニー&レイニー



手話ソング



KSC 太極拳クラブ



アンサンブルKSC



マジック同好会



茶道部 お点前



ケナフの会 紙すき体験



救急ボランティアあわせ